

ひ ふ はな
皮膚・鼻・アレルギーなどに関する質問

(22) あなたのお子さまは、今までにアトピー性皮膚炎と医師に診断されたことがありますか。

1. はい 2. いいえ

(23) あなたのお子さまは、今までにアレルギー性鼻炎と医師に診断されたことがありますか。

1. はい 2. いいえ
-

(24) あなたのお子さまは、今までに何らかの食物アレルギーになったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

(25) それは血液検査または皮膚テストで確認されていますか。

1. はい 2. いいえ
-

(26) あなたのお子さまは、ダニ、ホコリ、犬、猫、花粉に対して、1つでもアレルギーを持っていますか。

1. はい 2. いいえ

(27) それは血液検査または皮膚テストで確認されていますか。

1. はい 2. いいえ
-

(28) ご両親にぜん息になったことのある方はいますか。

1. はい 2. いいえ

質問は以上です。
最後にもう一度記入もれがないか見直してください。
ご協力ありがとうございました。

児童・保護者のみなさまへ

「全国小児気管支喘息調査」協力をお願い

これは、厚生労働省の調査研究で小児のぜん息という病気について調査するものです。文部科学省と学校または幼稚園のご協力をいただき、みなさまにお願いしています。

この調査は世界的に行われている質問用紙を使って、日本ではどのくらいの子供たちがぜん息に関係のある症状を持っているか、さらにはそのような症状がある人の症状出現頻度や治療状況を調べるものです。お鼻がよく出る人やお肌がかゆい人にはぜん息が多いともいわれていますので、これらに関連した質問もあります。また、何も症状がない人の回答もとても大切ですので、全ての質問にお答えください。なお、質問にお答えいただくのに5分程度のお時間を要しますが、ご協力の程、お願い申し上げます。

調査は、簡単な質問に対して、最もあてはまる項目を選択してマークシートに回答する方法で行われます。記入後は回答用紙のみを封筒に入れ、封をした上で、担任の先生に提出してください。なお、本調査は、無記名の調査であり、いずれにも名前をお書きにならずにご提出ください。

今回の調査への参加は自由ですが、趣旨をご理解いただき、できるだけご参加いただけますようお願いいたします。また、ご協力いただけない場合は、白紙のまま提出をしていただいても構いません。回答は必ず保護者の方がご記入ください。

なお、本調査は回答を統計処理した後、個人を特定できない形でホームページ上などで公表いたします。

ご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

主任研究者 国立成育医療センター
赤澤 晃

回答方法

- ① 回答は全て回答用紙（マークシート）にお願いします。
- ② 回答の仕方

1. 回答記入欄へのマークはHBの黒鉛筆、またはシャープペンを使用して、ていねいに記入してください。
2. あてはまる選択肢の○を塗りつぶしてください。
3. 訂正するときにはプラスチック消しゴムで完全に消し、消し^{ていせい}ずはきれいに取り除いてください。

記入は全て回答用紙にお願いします。

- (1) あなたのお子さまの現在の年齢^{ねんれい}をマークしてください。
- (2) あなたのお子さまの性別(男性・女性)をマークしてください。
- (3) あなたのお子さまの一番最近の身長(cm)をマークしてください。
(少数点以下は四捨五入してください。)
- (4) あなたのお子さまの一番最近の体重(kg)をマークしてください。
(少数点以下は四捨五入してください。)

呼吸器^{こきゅうき}に関する質問

- (5) あなたのお子さまは、今までいずれかの時期に、胸がゼイゼイまたはヒューヒューしたことがありますか。
1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(12)にお進みください。

- (6) あなたのお子さまは、最近12ヶ月のあいだに、胸がゼイゼイまたはヒューヒューしたことがありますか。
1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(12)にお進みください。

- (7) 最近12ヶ月のあいだにゼイゼイまたはヒューヒューしたのは生まれて初めてでしたか。
1. はい 2. いいえ

- (8) あなたのお子さまは、最近12ヶ月のあいだに、何回ゼイゼイする発作がありましたか。
1. 全くない 2. 1~3回 3. 4~12回 4. 13回以上

- (9) 最近12ヶ月のあいだに、ゼイゼイしたために、平均してどのくらいの頻度^{ひんどう}であなたのお子さまの睡眠^{すいみん}は妨げ^{さまた}られましたか。

1. ゼイゼイしたために目を覚ましたことはない
2. 1週間に1晩より少ない
3. 1週間に1晩かそれ以上

(18) あなたのお子さまは、胸がゼイゼイやヒューヒューしたときに息苦しくなりましたか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(20)にお進みください。

(19) そのような息苦しさは今までに2回以上ありましたか。

1. はい 2. いいえ

(20) あなたのお子さまは、ぜん息またはぜん息性気管支炎のために、最近1ヶ月間毎日服用するように医師に言われている薬はありますか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(22)にお進みください。

(21) その毎日服用している薬が、^{きゅうにゅうやく す}吸入薬(吸う薬)の場合は質問(21-1)に、^{ないふくやく}内服薬(飲む薬)の場合は質問(21-2)に、両方の場合は質問(21-1)および(21-2)にお答えください。

(21-1) 吸入薬についての質問

(21-1.1) 毎日服用している吸入薬全てを以下(1~4)から選んでください。

1. フルタイム吸入

(例)



2. キュバール吸入

(例)



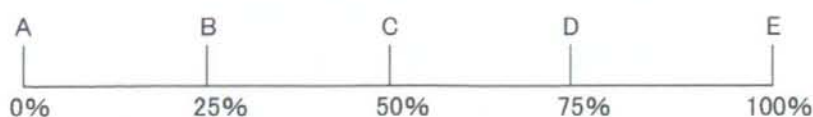
3. パルミコート吸入

(例)



4. その他の吸入薬

(21-1.2) これらの吸入薬はどの程度、医師に言われたとおりに実行できていますか。



- A. 全くしていない
- B. あまりしていない
- C. 半分くらい忘れるが、半分くらいできている
- D. 時々忘れるが、たいていできている
- E. ほぼできている

(21-2) 内服薬についての質問

(21-2.1) 毎日服用している内服薬全てを以下(1~4)から選んでください。

1. オノン、またはプラナルカスト

(例)



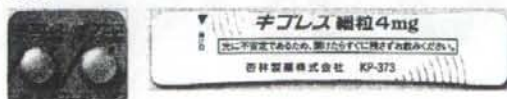
2. シングレア

(例)



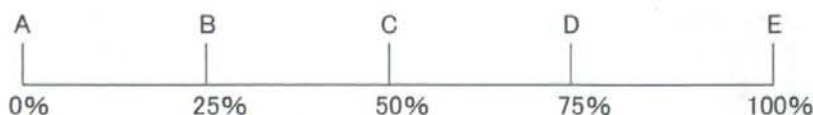
3. キプレス

(例)



4. その他の内服薬

(21-2.2) これらの内服薬はどの程度、医師に言われたとおり実行できていますか。



- A. 全くしていない
- B. あまりしていない
- C. 半分くらい忘れるが、半分くらいできている
- D. 時々忘れるが、たいていできている
- E. ほぼできている

はな
鼻に関する質問

(22) あなたのお子さまは、今までカゼやインフルエンザにかかっていない時に、くしゃみや鼻みず、鼻づまりの症状しょうじょうが起こったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(27)にお進みください。

(23) 最近12ヶ月のあいだで、あなたのお子さまは、カゼやインフルエンザにかかっていない時に、くしゃみや鼻みず、鼻づまりの症状が起こったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(27)にお進みください。

(24) 最近12ヶ月のあいだに、この鼻の症状は、眼めがかゆくて涙の出る症状と
いっしょに起こりましたか。

1. はい 2. いいえ

(25) 最近12ヶ月のあいだでいつ、この鼻の症状が起こりましたか。
(当てはまるもの全て選んでください。)

1. 1月 2. 2月 3. 3月 4. 4月 5. 5月 6. 6月
7. 7月 8. 8月 9. 9月 10. 10月 11. 11月 12. 12月

(26) 最近12ヶ月のあいだで、この鼻の症状は、どの程度あなたのお子さまの日常生活のじゃまとなりましたか。

1. 全くなし 2. 少し 3. 中程度 4. 大いに

(27) あなたのお子さまは、今までにかふんしょう花粉症になったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

ひふ 皮膚に関する質問

皮膚とは、麻疹やじんましんなどの病気も含んだいろいろな皮膚の病気による変化のことです。

湿疹とは、皮膚の中で特にアトピー性皮膚炎や乳児湿疹などのときにみられる皮膚の病気による変化のことです。

(28) あなたのお子さまは、今までに6ヶ月間以上、出たり消えたりするかゆみを伴った
皮膚がありましたか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(34)にお進みください。

(29) このかゆみを伴った皮膚は最近12ヶ月のあいだのいずれかの時期にありましたか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(34)にお進みください。

(30) このかゆみを伴った皮膚は下記のいずれかの場所にみられましたか。

肘の内側 膝の裏側 足首の前面 おしりの下 首や耳や眼のまわり

1. はい 2. いいえ

(31) この皮膚は最近12ヶ月のあいだのいずれかの時期に、完全に治ったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

(32) このかゆみを伴った皮膚は何歳のときに初めてできましたか。

1. 2歳になる前 2. 2~4歳 3. 5歳以降

(33) 最近12ヶ月のあいだに、平均してどのくらいの頻度で、あなたのお子さまは、
このかゆみを伴った皮膚のために、夜間起きていることがありましたか。

1. 最近12ヶ月間は全くない
2. 1週間に1晩より少ない
3. 1週間に1晩かそれ以上

(34) あなたのお子さまは、今までに湿疹ができたことがありますか。

1. はい 2. いいえ

質問は以上です。

最後にもう一度記入もれがないか見直してください。

ご協力ありがとうございました。

生徒・保護者のみなさまへ

「全国小児気管支喘息調査」協力をお願い

これは、厚生労働省の調査研究で小児のぜん息という病気について調査するものです。文部科学省と学校または幼稚園のご協力をいただき、みなさまにお願いしています。

この調査は世界的に行われている質問用紙を使って、日本ではどのくらいの子供も達がぜん息に関係のある症状を持っているか、さらにはそのような症状がある人の症状出現頻度や治療状況を調べるものです。お鼻がよく出る人やお肌がかゆい人にはぜん息が多いともいわれていますので、これらに関連した質問もあります。また、何も症状がない人の回答もとても大切ですので、全ての質問にお答えください。なお、質問にお答えいただくのに5分程度のお時間を要しますが、ご協力の程、お願い申し上げます。

調査は、簡単な質問に対して、最もあてはまる項目を選択してマークシートに回答する方法で行われます。記入後は回答用紙のみを封筒に入れ、封をした上で、担任の先生に提出してください。なお、本調査は、無記名の調査であり、いずれにも名前をお書きにならずにご提出ください。

今回の調査への参加は自由ですが、趣旨をご理解いただき、できるだけご参加いただけますようお願いいたします。また、ご協力いただけない場合は、白紙のまま提出をしていただいても構いません。保護者の方と相談した上で、必ず生徒ご本人が記入してください。

なお、本調査は回答を統計処理した後、個人を特定できない形でホームページ上などで公表いたします。

ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

主任研究者 国立成育医療センター
赤澤 晃

回答方法

- ① 回答は全て回答用紙（マークシート）にお願いします。
- ② 回答の仕方

1. 回答記入欄へのマークはHBの黒鉛筆、またはシャープペンを使用して、ていねいに記入してください。
2. あてはまる選択肢の○を塗りつぶしてください。
3. 訂正するときはプラスチック消しゴムで完全に消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

記入は全て回答用紙にお願いします。

- (1) あなたの現在の年齢^{ねんれい}をマークしてください。
- (2) あなたの性別(男性・女性)をマークしてください。
- (3) あなたの一番最近の身長(cm)をマークしてください。
(少数点以下は四捨五入してください。)
- (4) あなたの一番最近の体重(kg)をマークしてください。
(少数点以下は四捨五入してください。)

こきゅうき

呼吸器に関する質問

- (5) あなたは、今までいずれかの時期に、胸がゼイゼイまたはヒューヒューしたことがありますか。
1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(12)にお進みください。

- (6) あなたは、最近12ヶ月のあいだに、胸がゼイゼイまたはヒューヒューしたことがありますか。
1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(12)にお進みください。

- (7) 最近12ヶ月のあいだにゼイゼイまたはヒューヒューしたのは生まれて初めてでしたか。
1. はい 2. いいえ

- (8) あなたは、最近12ヶ月のあいだに、何回ゼイゼイする発作がありましたか。
1. 全くない 2. 1~3回 3. 4~12回 4. 13回以上

- (9) 最近12ヶ月のあいだに、ゼイゼイしたために、平均してどのくらいの頻度^{ひんどう}であなただの睡眠^{すいみん}は妨げ^{さまた}られましたか。

1. ゼイゼイしたために目を覚ましたことはない
2. 1週間に1晩^{ばん}より少ない
3. 1週間に1晩かそれ以上

(18) あなたは、胸がゼイゼイやヒューヒューしたときに息苦しくなりましたか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(20)にお進みください。

(19) そのような息苦しさは今までに2回以上ありましたか。

1. はい 2. いいえ

(20) あなたは、ぜん息またはぜん息性気管支炎のために、最近1ヶ月間毎日服用するように医師に言われている薬はありますか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(22)にお進みください。

(21) その毎日服用している薬が、吸入薬(吸う薬)の場合は質問(21-1)に、内服薬(飲む薬)の場合は質問(21-2)に、両方の場合は質問(21-1)および(21-2)にお答えください。

(21-1) 吸入薬についての質問

(21-1.1) 毎日服用している吸入薬全てを以下(1~4)から選んでください。

1. フルタイド吸入

(例)



2. キュバール吸入

(例)



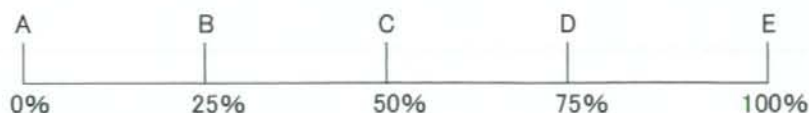
3. パルミコート吸入

(例)



4. その他の吸入薬

(21-1.2) これらの吸入薬はどの程度、医師に言われたとおりに実行できていますか。

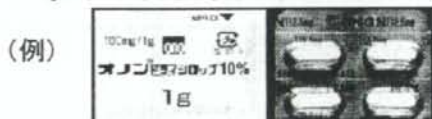


- A. 全くしていない
- B. あまりしていない
- C. 半分くらい忘れるが、半分くらいできている
- D. 時々忘れるが、たいていできている
- E. ほぼできている

(21-2) 内服薬についての質問

(21-2.1) 毎日服用している内服薬全てを以下(1~4)から選んでください。

1. オノン、またはプラシルカスト



2. シングレア

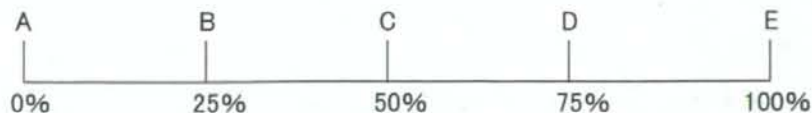


3. キプレス



4. その他の内服薬

(21-2.2) これらの内服薬はどの程度、医師に言われたとおりに実行できていますか。



- A. 全くしていない
- B. あまりしていない
- C. 半分くらい忘れるが、半分くらいできている
- D. 時々忘れるが、たいていできている
- E. ほぼできている

はな
鼻に関する質問

以下の(22)から(27)の質問は、あなたがカゼやインフルエンザにかかっていない時に起こる

しょうじょう
症状についておたずねします。

- (22) あなたは、今までカゼやインフルエンザにかかっていない時に、くしゃみや鼻みず、鼻づまりの症状が起こったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(27)にお進みください。

- (23) 最近12ヶ月のあいだで、あなたは、カゼやインフルエンザにかかっていない時に、くしゃみや鼻みず、鼻づまりの症状が起こったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(27)にお進みください。

- (24) 最近12ヶ月のあいだに、この鼻の症状は、眼がかゆくて涙の出る症状と
いっしょに起こりましたか。

1. はい 2. いいえ

- (25) 最近12ヶ月のあいだでいつ、この鼻の症状が起こりましたか。
(当てはまるもの全てを選んでください。)

1. 1月 2. 2月 3. 3月 4. 4月 5. 5月 6. 6月
7. 7月 8. 8月 9. 9月 10. 10月 11. 11月 12. 12月

- (26) 最近12ヶ月のあいだで、この鼻の症状は、どの程度あなたの日常生活のじゃま
となりましたか。

1. 全くなし 2. 少し 3. 中程度 4. 大いに

- (27) あなたは、今までに花粉症になったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

皮膚に関する質問

皮膚とは、麻疹やじんましんなどの病気も含んだいろいろな皮膚の病気による変化のことです。

湿疹とは、皮膚の中で特にアトピー性皮膚炎や乳児湿疹などのときにみられる皮膚の病気による変化のことです。

(28) あなたは、今までに6ヶ月間以上、出たり消えたりするかゆみを伴った皮膚がありましたか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(34)にお進みください。

(29) このかゆみを伴った皮膚は最近12ヶ月のあいだのいずれかの時期にありましたか。

1. はい 2. いいえ

もし、「2. いいえ」と答えた場合は、質問(34)にお進みください。

(30) このかゆみを伴った皮膚は下記のいずれかの場所にみられましたか。

肘の内側 膝の裏側 足首の前面 おしりの下 首や耳や眼のまわり

1. はい 2. いいえ

(31) この皮膚は最近12ヶ月のあいだのいずれかの時期に、完全に治ったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

(32) このかゆみを伴った皮膚は何歳のときに初めてできましたか。

1. 2歳になる前 2. 2~4歳 3. 5歳以降

(33) 最近12ヶ月のあいだに、平均してどのくらいの頻度で、あなたは、このかゆみを伴った皮膚のために、夜起きていることがありましたか。

1. 最近12ヶ月間は全くない
2. 1週間に1晩より少ない
3. 1週間に1晩かそれ以上

(34) あなたは、今までに湿疹ができたことがありますか。

1. はい 2. いいえ

質問は以上です。

最後にもう一度記入もれがないか見直してください。

ご協力ありがとうございました。

乳幼児喘息の疫学調査用質問票の開発に関する研究—長期管理薬使用に関する調査—

研究分担者	足立 雄一	富山大学医学部小児科	講師
研究協力者	板澤 寿子	富山大学医学部小児科	助教
	足立 陽子	富山大学医学部小児科	医員

研究要旨 喘息の疫学調査を行うに当たり、小中学生における調査票の妥当性は既にいくつかの質問票で検証されている。しかし、小児喘息の大半が発症するとされる乳幼児期の調査を行う上で妥当性が検証された質問票は未だ存在しない。そこで、新たに乳幼児喘息の疫学調査用の質問票を試作し、平成 19 年度にはそれを用いた時の診断の妥当性を証明した。本年度は、長期管理薬使用における質問票の妥当性についても検討した。薬剤をカラー写真で提示した質問票を用いることによって、実際に医師が処方している薬剤との高い（92-95%）一致率を認めた。に一致していた。また、質問票の他の項目で重症と判断された児 18 名中 10 名が吸入ステロイド薬を未使用であることも明らかとなり、本質問票はガイドラインの適正使用の調査にも使用可能と考えられた。一方、吸入ステロイド薬の吸入量の調査には、さらなる工夫が必要と思われた。

A. 研究目的

平成 18 年度に厚生労働科学研究費補助金で行った「富山県における 3 歳児のアレルギー疾患の発症と環境因子の関係に関する研究」では、3 歳児における過去に医師に診断された喘息の有病率は 13.6%であった。一方、乳幼児喘息の診断や治療は必ずしも容易ではなく、医師間のバラツキも大きいことが知られているため、新たに乳幼児喘息の疫学調査用の質問票を作成するにあたり、いくつかの点をクリアする必要があった。そこで、まず平成 19 年度に、開発された調査票における診断の妥当性を証明することができたので、本年度は長期管理薬使用における調査票の妥当性についても検討した。

B. 研究方法

対象は、アレルギー専門医の施設（4 病院と 3 診療所）に通院する 0-5 歳児 365 名のうち、「喘息または喘息性気管支炎のために、最近 1 か月間毎日服薬している」児 125 名で、その保護者に服薬している吸入ステロイド薬（ICS）の種類・1 日量・内服薬（ロイコトリエン受容体拮抗薬、抗 LT 薬）の種類を、それぞれの薬物のカラー写真入りの質問票を用いて調査した。それと同時に、担当医にも上記の点を確認し、保護者の回答との合致率を解析した。さらに、病院と診療所間での違いについても検討した。

C. 結果

ICS を使用している 54 名全体では薬剤名の—

致は90.7%で認められ、病院・診療所間で大きな差は認められなかった(92.3% vs 86.7%)。また、3種類のICSが使用されていたが、薬剤名の一致に関しては同程度であったが、吸入量の一致率は薬剤の種類によって大きく異なっていた。

一方、抗LT薬における薬剤名の一致率は、89.8%と高率であった。

	薬剤名	吸入量
フルチカゾン	13/14 (92.9)	10/14 (72.4)
ベクロメサゾン	16/17 (94.1)	10/17 (58.8)
ブデソニド	20/23 (95.2)	6/23 (23.8)
合計	49/54	26/54
(%)	(90.7)	(48.1)

D. 考察

今回の結果から、薬剤をカラー写真で提示した質問票を用いて薬剤名を確認することの妥当性が明らかとなった。病院・診療所間での差もないことより、幅広く使用可能であると考え。そして、今回の質問票の他の項目で重症と判断された児18名中10名がICSを未使用であることも明らかとなり、本質問票を用いることでガイドラインの適正使用の調査にも使用可能と考えられた。

E. 結論

薬剤をカラー写真で提示した質問票を用いて薬剤名を確認する質問票は、長期管理薬の種類を確認する疫学調査に使用可能である。一方、ICS

の吸入量の調査には、さらなる工夫が必要である。

F. 健康危険情報

総括研究書に記入済み

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 足立雄一、村上巧啓、中村利美、谷内江昭宏、大嶋勇成、眞弓光文。外来での簡単な問診票とチェック表を導入することによる小児気管支喘息ガイドラインに沿った治療推進の効果。日本小児アレルギー学会誌 22:369-378:2008.
- 2) 赤澤 晃、小田嶋博、足立雄一、大矢幸弘、明石真幸、小嶋なみ子。小児気管支喘息の疫学。喘息 21:26-34:2008.

2. 学会発表

- 1) Y Adachi, Y Okabe, T Itazawa, YS Adachi, T Miyawaki, H Odajima, Y Ohya, A Akazawa. Validity of a questionnaire for diagnosis of asthma in younger children. 65th Annual Meeting of American Academy of Allergy & Immunology, 2009, 3.13-17, Washington, DC, USA.
- 2) 岡部美恵、板澤寿子、足立陽子、五十嵐隆夫、村上巧啓、尾上洋一、高尾 幹、中林玄一、淵澤竜也、足立雄一、宮脇利男、赤澤 晃。乳幼児喘息疫学調査用質問票の妥当性に関する研究 第2報 長期管理薬の使用について。第45回日本小児アレルギー学会、2008、12.13-14、横浜。
- 3) 足立雄一、板澤寿子、足立陽子、五十嵐隆夫、村上巧啓、尾上洋一、高尾 幹、中林玄一、

淵沢竜也、宮脇利男、赤澤 晃. 乳幼児喘息疫学調査用質問票の妥当性に関する研究. 第20回日本アレルギー学会春季臨床大会、2008、6.12-14、東京.

- 4) Y Kawagishi, Y Adachi, M Maruyama, R Hayashi, S Matsui, K Tobe. Prevalence of asthma by questionnaire of ERCHS and

QOL by SF-8 in a local city of Japan. 2008 International Conference of American Thoracic Society、2008、5.16-21、Toronto, Canada.

- H. 知的財産権の出願・登録状況
現実点では、特になし

厚生労働科学研究補助金（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）
分担研究報告書

小児気管支喘息患者の養育者の QOL 尺度（臨床用）の開発研究

研究分担者	大矢 幸弘	国立成育医療センター第一専門診療部アレルギー科医長
研究代表者	赤澤 晃	国立成育医療センター総合診療部小児期診療科医長
研究協力者	渡辺 博子	国立病院機構神奈川病院小児科医員
	勝沼 俊雄	東京慈恵会医科大学小児科准教授
	近藤 直実	岐阜大学大学院医学研究科小児病態学教授
	成田 雅美	国立成育医療センター第一専門診療部アレルギー科

研究要旨

喘息の入院患者が減り、コントロールが改善してきた今日の日本においては、小児気管支喘息患者の養育者の QOL は発作に関する側面では向上したかもしれないが、慢性疾患として非発作時の管理を必要とする疾患であるため、その他の面での QOL も考慮すべき時代となっている。そこで、小児喘息患者の養育者から直接情報を収集し計量心理学的手法を用いて QOL 尺度の開発に着手した。これまで 24 項目からなる調査票を開発したが、今回は臨床現場における診療に使用することに適した 10 項目程度からなる短縮版の開発を行った。24 項目版を作成したときに検出された 11 因子を基に、それらを代表する質問項目を抽出し作成した調査票を研究者の施設に通院する患者の養育者に配布し、196 名から回答を得て再現信頼性と症状反応性について昨年度の研究で調査し良好な結果を得た。今年度は、この 11 項目の尺度（QOLCA-11）について重症度および SF-8 との関係を調べるため 865 名の保護者からの回答を得、解析を行った。QOLCA-11 のスコアは重症度が悪化するほどスコアが低くなるという逆相関が認められた。SF-8 との関係では、QOLCA-11 は身体的サマリースコアである PCS8 および精神的サマリースコアである MCS8 の両者ともに有意な相関を認めたが、MCS8 とより強い相関があり、精神面での QOL をより反映する尺度であることが示唆された。

A. 研究目的

喘息の入院患者が減り、コントロールが改善してきた今日の日本においては、小児気管支喘息患者の養育者の QOL は発作に関する側面では向上したかもしれないが、慢性疾患として非発作時の管理を必要とする疾患であるため、その他の面での QOL も考慮すべき時代となっている。そこで、小児喘息患者の養育者から直接情報を収集し計量心理学的手法を用いて QOL 尺度の開発に着手した。これまで 24 項目からなる調査票を開発した

が、今回は臨床現場における診療に使用することに適した 10 項目程度からなる短縮版の開発を行った。

B. 方法

喘息児の養育者の QOL を反映する質問項目は、24 項目版の開発時に行った無記名・自由記述による 112 名の保護者への一次調査と 10 名の喘息児の母親へのインタビューを基にして得られたデータから 111 問の選択式設問からなる二次調査票を作成し、314 名の保護者への二次調査を行い因

子分析によって得られた 11 の因子から重要度分析の結果と専門家の合議を得て各因子から 1 項目選択し、11 問からなる QOL 尺度を作成した (QOLCA-11)。昨年度は研究従事者の勤務する施設に通院する喘息児の保護者に配布し 196 名から回答を得た。再現信頼性と症状反応性を調査し、良好な結果が得られたので、本年度は QOLCA-11 を研究従事者が勤務する医療機関に通院する気管支喘息の子どもを持つ保護者に配布し 865 名から回答を得た。同時に重症度および全般的 QOL 尺度である SF8 についても調査し、それらとの関係について解析した。

表 1 QOLCA-11 各問の構成概念

問	構成概念
1	保護者の仕事への影響による負荷
2	ペット飼育禁止によるストレス
3	遺伝に関する周囲からの責め
4	家族の外出や旅行への影響
5	喘息治療に対する家族の非協力
6	子どもの服薬に関する負担感
7	夜間の発作に対する不安
8	子どもの様子に神経質になる
9	掃除や洗濯の負担
10	子どもの将来への不安
11	喘息を学校などに理解してもらう苦労

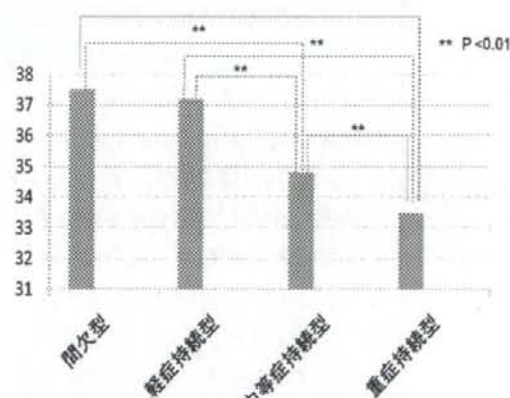
C. 結果

治療の内容を考慮した重症度別に 11 問の総合得点の平均を比較したところ、間欠型 (有効回答数 182 名) が 37.5 点 (標準偏差 4.9 点)、軽症持続型 (有効回答数 338 名) が 37.2 点 (標準偏差 5.3 点)、中等症持続型 (有効回答数 187 名) が 34.8 点 (標準偏差 5.8 点)、重症持続型 (有効回答数 55 名) が 33.5 点 (標準偏差 6.6 点) であった。一元配置の分散分析で検定したところ、間欠型と軽症持続型の間以外ではほとんどの重症度との間に有意な差があり、重症度との相関係数

(Spearman) は -0.31 ($p < 0.001$) であった。また、重症度と SF8 の関係を調べたところ、身体的サマリースコアである PCS8 は重症度による差がなく、相関係数は 0.021 (Spearman) しかなかった。精神的サマリースコアである MCS8 のほうが相関係数は 0.078 ($p = 0.22$) (Spearman) と若干高かったが、今回開発した QOL 尺度ほどの相関は認められなかった。一方、今回開発した QOL 尺度と SF8 との相関は PCS8 との相関が 0.176 ($p < 0.001$) で、MCS8 との相関は 0.318 ($p < 0.001$) と精神的サマリースコアとの相関がより強かった。

図 1 QOLCA-11 と重症度との関係

Spearman の相関係数 = -0.31 ($p < 0.001$)



間欠型 182 名、軽症持続型 338 名

中等症持続型 187 名、重症持続型 55 名

図 2 SF-8 と重症度との相関

